

〒745-0034 周南市御幸通2丁目22
防長本社 Eメール bocho@chugoku-np.co.jp
中国新聞山口 Eメール chugoku@c-spice.co.jp
情報サービス URL http://www.c-spice.co.jp
☎0834(33)5605 FAX0834(33)5610

ホット通信

僕は世界で一番おいしい料理を作る人はうちの祖母ちゃんだと信じています。これは絶対間違いありません。お母ちゃんが作ってくれたご飯も好きですが、お弁当もなかなかのものなんです。
スリランカの家で一番早起きはお母ちゃんです。目覚ましがないので、鶏の鳴き声が

民さんたのやまぐち日記

13

時計代わり。お母ちゃんは起きるなり、釜に火をつけて炊事に取り掛かります。そして朝ご飯がそろそろ出来上がるころ、包丁を持ってまだ暗かりの庭に出ていきます。
戻ってきたお母ちゃんは、庭で切り取ったばかりの大きなバナナの葉っぱを手にしています。そして鍋をのせているかまどの火をもらって、葉

愛情感じ 違いを楽しむ

バナナの葉っぱのお弁当



イラスト・石井彩子

つばの裏側をあぶるのです。ときには、教科書の入った鞆かぶと葉っぱがちぎれにくくなるためです。
何を隠そう、このバナナの胸元にしつかりと。スリランカは常夏といわれるけど、そのころでも朝晩は少し冷え込みます。そんなとき、バナナの葉っぱと新聞紙に伝わってくる温かい熱がなんとも気持ち良いのです。
朝は本当につらい。まだまだ学校に着くと、弁当を机の中に入れておきます。時間が経つてだんだん暖かくなるからと親に起こされ、急いで顔を洗い、服を着替えて朝食をつれ、バナナの葉っぱに蒸せたりと。家を見送られるたご飯がなんともいえない香りを放ちます。
教室全体に充満するそのあまりにもおいしい香りは、我が子の遠足にお弁当をに我慢できず、ついつい先生に隠れてコンビニなんか立ち寄り弁当に手を出さず、規格外のお弁当を子どもたちが並んで食べようとして、なんか寂しい気がしませんか。
お昼の時間 (県立国際化学部助教教授 J・A・T・D・にしゃんた)

を持ちより、二、三台の机をくっつけてみんなで囲みまはす。そして、それぞれのお弁当を広げ、自分のおかずを少しずつ取って周りの弁当に載せていきます。それがすんでからはじめて一斉に食べるので、自分の家のお弁当のほか、友達の家と違う味付けや料理法が異なるおかずを食べられるのは楽しみです。スリランカの子供にとって、バナナの葉っぱのお弁当は親の精進の愛情を一番感じられる瞬間と同時に、違いを楽しむ基本的な感覚を養わせる大事な過程なのかもしれません。

快晴におしどり達もお出掛けと数少ない管理人は言う。中井富佐子 残雪の牧野峠を越ゆと見し涅槃のごとき山の連なり 是国 和子 芳春院に初釜のお茶飲み干すに器の底に福の字現る 中岡 文字 五十余基の歌碑の成りたり秋分に葉を奏して除幕式成る 松重マツ枝 初めての振り袖まといポース取るばあはとママとの自慢のあなた 稲田 文字 土日にも爆音響くわが町の梅のつぼみに日差しやわらか 西村カズコ 窓の外舞い散る雪の絶え間なく山の稜線空に溶けこむ 小林 郁枝 この道を通つ直ぐ右へと答えたり宇野千代邸の道に住むわれ 梶村 幸子 旅立ちし友偲びつつ早春賦流るる夕べを部屋にこもりぬ 中村 澄子 雨の中短く鳴ける山鳩の声聞きながら裏道歩む 西村 恵子 逆さまに黄ばら紅ばら吊されてゆれて唄うよ月の砂漠を 叶井 幸子 窓に添ふ棕櫚竹の葉の折々に揺るるを眺むるとき 座して 隅 一 ふるさとのセピア色頭つ 蛙焼きの煙たなびく夕暮れときは 金光紀代子 刻々と時きさみつつ昇り来るスバルは遙かわれの頭上に 見田 安夫 雪積みて天窓の明かられ厨はひすがら薄まま休む 岩本 一 一つ聞き一つ忘れても暮れぬ明日は如何思いつつ休む 浜田 しみもりて雪の残れ 映に湧水汲まむと列 川本 久 風強く髪を乱れをへンにおさえて夕餉の物に急ぐ 小松セ 山遠く昇る初日の輝 幸を祈りぬうからと 温品八 初春の寺の境内にしろと樹水美し朝日の 磯村 〆 俳句 春嶺俳句会 (岩田) 驚の衣白を極めて初 蛸壺をうす高く積 来問 藤井 兄弟といへど正座の かな 末岡 夜廻りの一打一打 かる 佐々木 お鏡に敷いて出雲 和紙 石井 しまく中髪をなび 斎藤 マフラーに顔ふか 地蔵尊 松村 七草を摘む夕映に 和泉 初釜やつまみ細工 岡本 桜の花の香闇に流

教育・文化